

## 平成30年度第2回中部森林管理局保護林管理委員会 議事概要の公表について

保護林管理委員会は、森林・林業や自然環境に関する専門家、関係地方公共団体等で構成され、中部森林管理局管内における保護林の設定、変更、廃止、管理及びモニタリング等に関する事項並びに保護林に関連する生物多様性の保全について検討を行っています。

「平成30年度第2回中部森林管理局保護林管理委員会」を以下のとおり、開催しましたので、その議事概要等を公表します。

1 開催日時 平成31年2月12日（火）13時30分～15時30分

2 開催場所 長野県長野市大字栗田715-5  
中部森林管理局 大会議室

3 議事概要 別紙のとおり

### 4 検討内容

- (1) 平成30年度モニタリング調査結果の概要について
- (2) 平成31年度モニタリング調査計画について
- (3) 「木曾生物群集保護林復元部会の運営について」の改定について

—お問合せ先—

林野庁 中部森林管理局 計画保全部計画課

担当者： 富岡、栗田

電話： 050-3160-6583



## 平成30年度 第2回中部森林管理局保護林管理委員会議事概要

開催日時 及び場所	平成31年2月12日（火） 13:30～ 15:30 中部森林管理局 会議室
出席委員	植木 達人 （信州大学農学部 教授） 委員長 奥 敬一 （富山大学芸術文化学部 准教授） 小宮山義光 （日本野鳥の会長野支部 幹事） 西條 好迪 （自然学総合研究所 理事長） 竹中 千里 （名古屋大学大学院生命農学研究科 教授） 由井 正隆 （長野県木材協同組合連合会 理事） 委員8名中6名出席 （五十音順）
議 題	1 平成30年度モニタリング調査結果の概要について 2 平成31年度モニタリング調査計画について 3 「木曾生物群集保護林復元部会の運営について」の改定について
概 要	<p>○ 委員からの主な意見</p> <p>1 平成30年度モニタリング調査結果の概要について 外来種は、完全に駆除するのは不可能であるものの、減らす努力を行い、分布域を増やさないことが第一だと考える。</p> <p>外来種の生態を考慮した上で、どのような対策をとるのかということを経段的に考える必要がある。</p> <p>セイヨウタンポポが増えているが、在来種のニホンタンポポは絶滅に近い状況になっているのではないかと懸念している。</p> <p>シカやイノシシ等も野生動物であり、獣害として問題なのはヒノキやスギに対する被害又は、食害があるか、ということを中心に考えていく必要がある。例えば、リョウブに角研ぎをした程度であれば問題にする必要はないと理解している。</p> <p>シカの問題は、広い地域で見た場合にシカが増えていく率が着実に上がっているときは生息数をコントロールすることが重要であり、なるべく早いうちに水際で防御することが必要である。また、国有林内だけに関わらず、広く情報を集めて、増加が懸念される場合は早めに様々な機関等と協力して対処していくことが重要である。</p> <p>モニタリング評価結果の項目のうち[エ-温暖化]について、どういう現象を想定しているのか、例えば、今のシカが北上しているのは温暖化の影響かもしれないし、湿地の乾燥化についても温暖化の影響かもしれない。この項目の扱いはどう解釈したらよいか疑問である。</p> <p>今回報告のあった保護林13箇所については、森林生態系的に問題と思われるレベルの変化ではなく、特段の保護対策が必要な状況ではないと考える。</p> <p>2 平成31年度モニタリング調査計画について 意見なし</p> <p>3 「木曾生物群集保護林復元部会の運営について」の改定について 意見なし</p> <p style="text-align: right;">以上</p>